

ロードエル

(張出歩道床版)

特 長

現代の社会的ニーズに対応すべく開発されたのがロード・エルです。施工がスピーディーな為、工事がひきおこす交通障害をできるだけ短期間に抑えることができ、より安全な歩道新設を実現させることができます。短期間で安全な歩道の建設を可能とする画期的な張出式歩道用床版です。

片持構造ではあるが逆T型の底版によって過大な地耐力を必要とすることなく高い安定性が得られます。現場でのコンクリート打設等の作業が極めて少ない為、施工性は高く交通障害の減少にも役立ちます。擁壁兼用構造となっている為、路肩や基礎の施工が簡単であり大幅な工期の短縮が計れます。

製 品 形 状

施工前

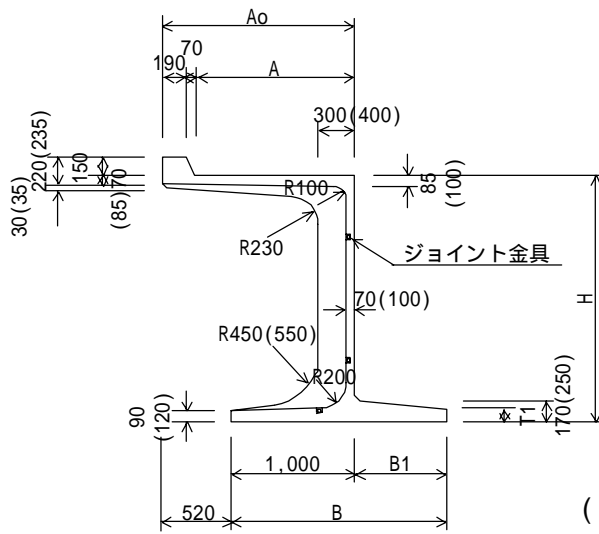


施工後

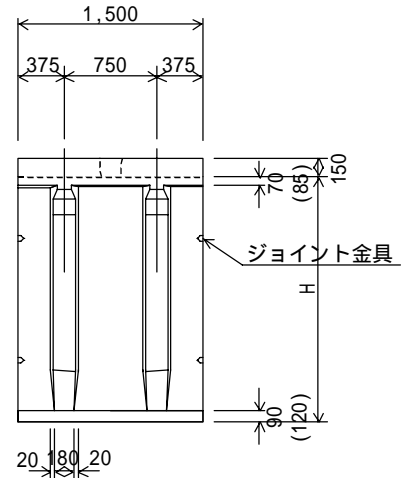


製品寸法

側面図

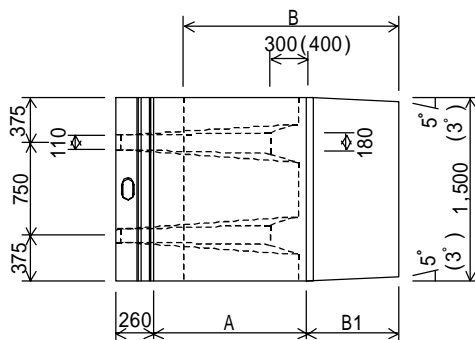


正面図



()内の寸法はH=2250~3000の製品を示します。

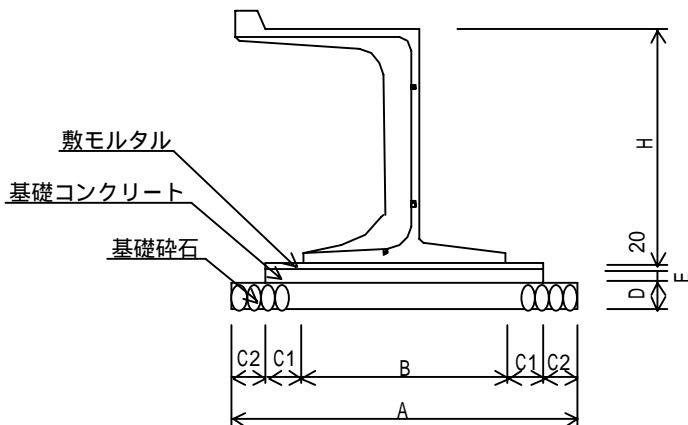
平面図



呼び名 (H)	各部の寸法					参考質量 (kg)
	B	B1	T1	A	Ao	
1000	1220	220	150	1300	1560	1598
1250	1330	330	139			1787
1500	1480	480	125			2002
1750	1620	620	112			2211
2000	1750	750	100			2413
2250	1880	880	144			3588
2500	2000	1000	130			3865
2750	2130	1130	114			4152
3000	2250	1250	100			4428

c=25KN/m³とした計算上の値を記載してあります。

標準断面図



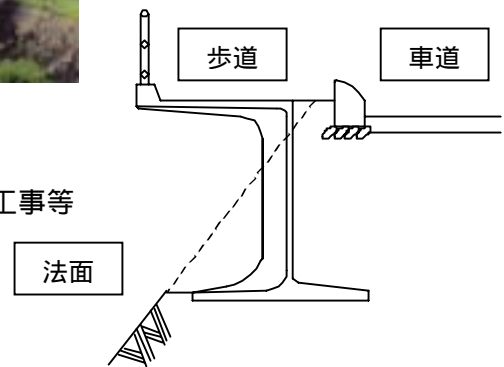
呼び名 (H)	寸法					
	A	B	C1	C2	D	E
1000	1550	1220	65	100	150	120
1250	1700	1330	85	100	150	120
1500	1950	1480	85	150	200	150
1750	2100	1620	90	150	200	150
2000	2250	1750	100	150	200	150
2250	2380	1880	100	150	200	150
2500	2500	2000	100	150	200	150
2750	2630	2130	100	150	200	150
3000	2750	2250	100	150	200	150

使用用途

法面部に設置する場合



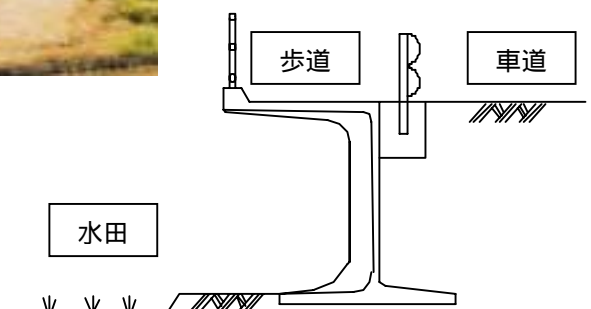
擁壁兼用型である為、新たな用地の確保や、路肩の補強工事等を必要とせず容易に新設することができる。



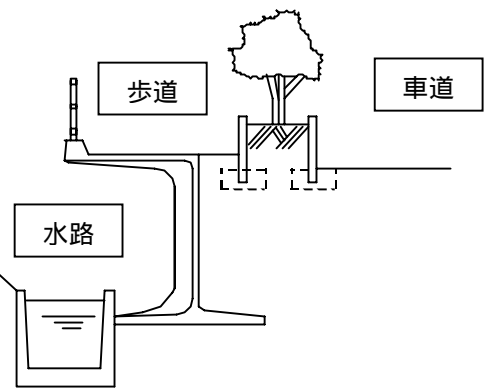
水田・畦脇に設置する場合



水田の畔等に沿って、狭い道路部拡張歩道施設として使用できる。

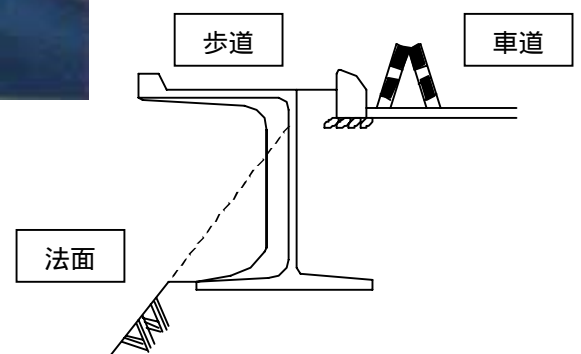


用水路等に設置する場合



用水路・排水路等の水辺に沿って水面に蓋することなく、上空部だけを使用して安全で快適な歩道が設置できる。

狭い道路に設置する場合



施工がスピーディーな為、工事がひきおこす交通障害をできるだけ短期間に抑える事ができ、より安全な歩道新設を実現させることができる。

構造特性

標準仕様の設計条件

- 荷重 車道部路面上載荷重 $q=10\text{KN/m}^2$
歩道部直載荷重 $q=5\text{KN/m}^2$
- 土質 埋戻し部の土砂は内部摩擦角 $=30^\circ$ 以上、 $s=19\text{KN/m}^2$
- 安定 転倒は 偏心距離 $|e| \leq B/6$
滑動は 安全率 $F \geq 1.5$

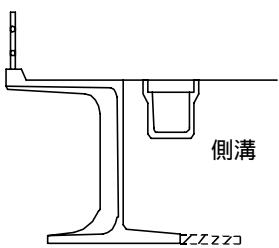
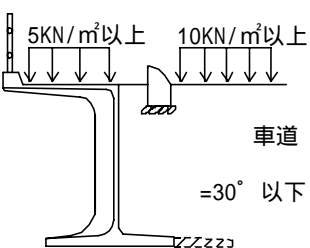
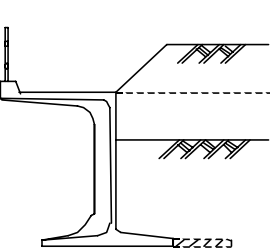
地盤の耐力

呼び名 H	1000	1250	1500	1750	2000	2250	2500	2750	3000
必要地耐力 (KN/m ²)	35	40	40	45	45	55	60	65	70

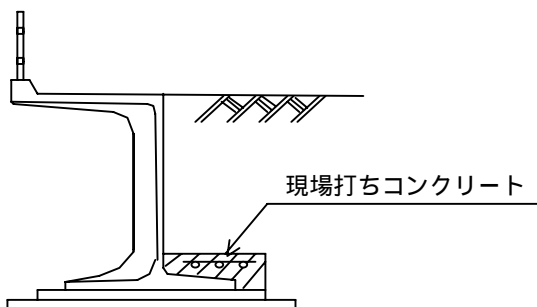
地盤の耐力が不足する場合は地盤改良を行って下さい。

コンクリートの設計基準強度 $ck=30\text{N/mm}^2$

底版長の変更が必要な場合

1) 側溝等を底版上部に設置する場合	2) 荷重及び土質が標準仕様の条件と異なる場合	3) 盛土の土砂が同レベルでない場合 高レベル 低レベル
		

現場打ちコンクリートで底版部を補強する場合



(現場状況によっては鉄筋が必要な場合もあります。)

- 1) 支持地盤の耐力が、延長方向でばらつきが大きく不安定となっている場合(この場合は基礎のコンクリートも厚くする必要があります)。
- 2) 底版部近くで、地質が変化し滑動を起し易くなっている場合
上記で示す場合も、状況によってこの方法を採用することもできます。

施 工 手 順**1 . 基礎打設**

基礎の工事は、その地盤の状況によって作業の内容を決定する必要があります。

先端のつま先部の施工には特に注意をし、基礎下部の土砂に崩壊が起こらないようにして下さい。



1 . 基 礎 打 設

2 . 据 付

製品は必ず3点で吊り上げて下さい。

埋め戻しが終わるまで、歩道部での作業は行わないで下さい。



2 . 据 付

3 . 埋 戻 し

埋め戻し土は良質のものを使用し、十分に転圧を行って下さい。



3 . 埋 戻 し

4 . 完 成

転落防護柵を取付け、目地部にモルタルを充填して完了です（カーブ部使用のときの目地幅は、最大で5cm程度です）。



4 . 完 成